

漁海況情報第7報 (2014年10月7日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0159

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>」でも公開中です。

1. 海況

本県の沿岸から沖合の表面水温は平年並み、100m深水温は低めとなっています。

宮城県沿岸から沖合海域の表面水温は、19～20℃台となっており、平年並みとなっています。100m深水温は4～14℃台となっており、平年よりも低めとなっています。また 38° N の 142° 30′ E 付近に 4℃ 台の冷水域が見られています [P1.水温水平分布図] [P1.水温平年偏差図]。

水温鉛直断面図をみると、前回調査(9月1～4日)よりも表面から100m層までの等温線の間隔は広がっています [P2.水温鉛直断面図]。

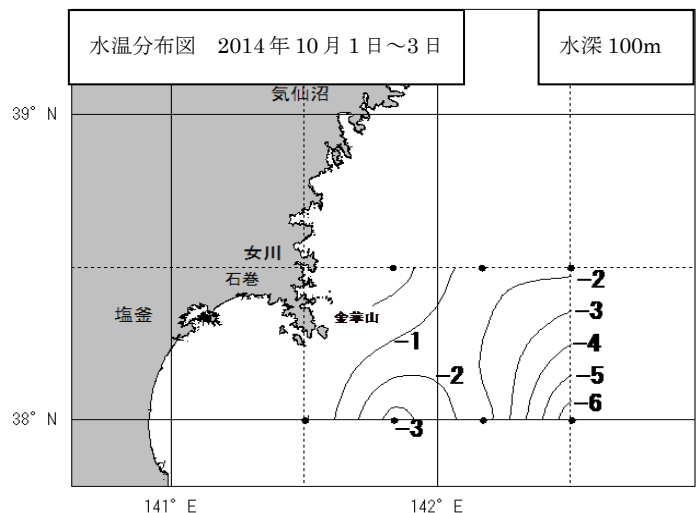
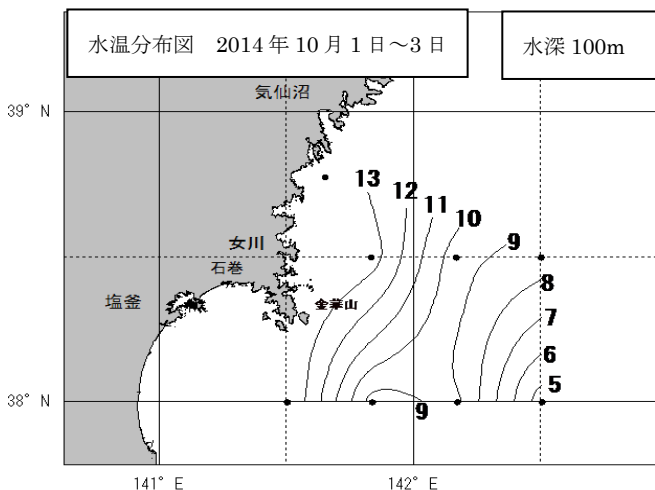
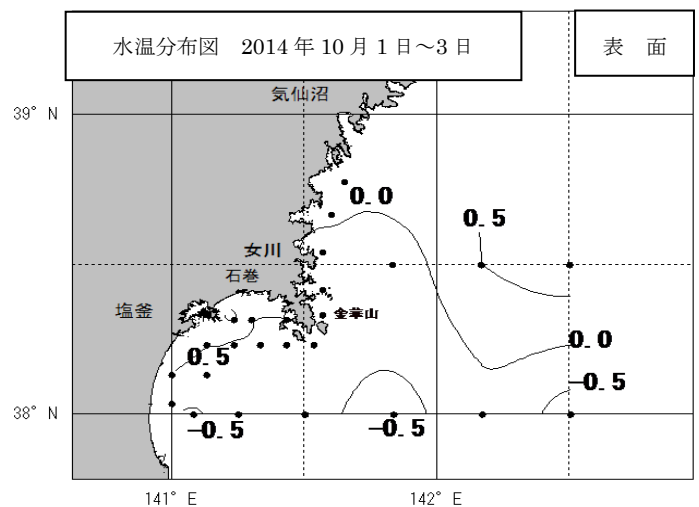
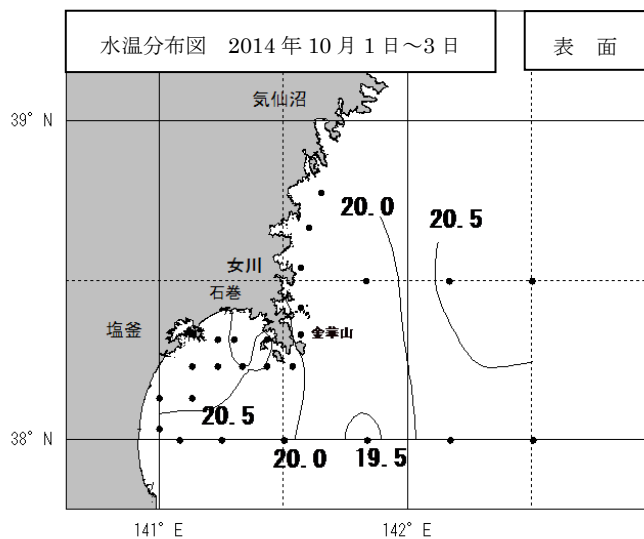
(一社) 漁業情報サービスセンター配信の東北海域漁海況情報(表面水温)によると、親潮第一分枝は津軽暖流の張り出しと三陸沖暖水渦の間隙を縫って勢力を拡大しながら南下し、親潮第二分枝も勢力を強めて146～148° Eを仙台湾の沖合まで南下しているのがわかります。[P2.東北海域の海況図：(一社) 漁業情報サービスセンター]。

9月下旬の定地水温は20～21℃台となっています。平年値との比較では、気仙沼(杉ノ下)、江島、田代島及び佐須浜ともに「平年並み」となっています [P2.定地海洋観測結果]。

海底直上水温については、3～19℃台です [P3.海底直上水温図]。

・水温水平分布図

・水温平年偏差図(現在水温と平年水温との差)

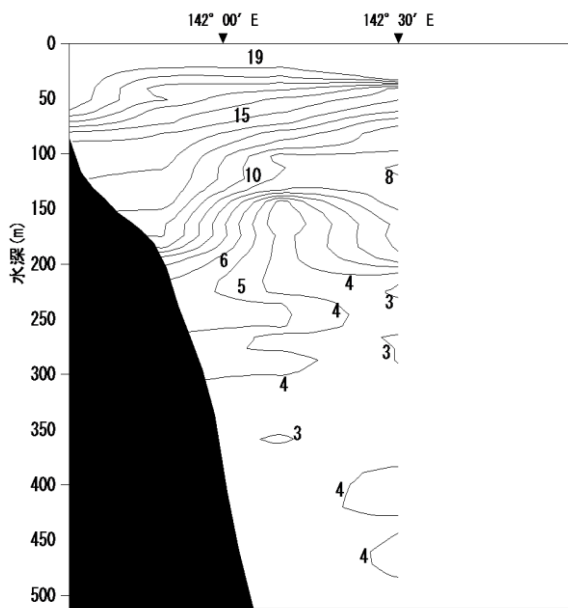


※海洋観測はみやしおと開洋が実施しました。荒天により一部測点で欠測しました。

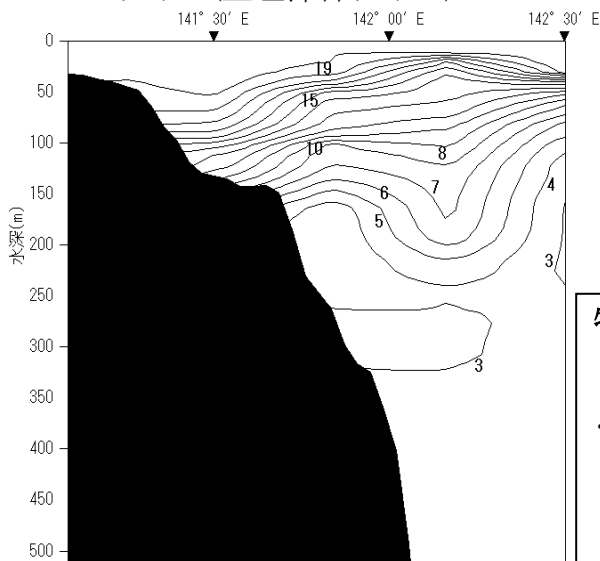
(補足情報)38° 30′ N 142° 30′ E の調査点でアカイカを多数視認しました。

・水温鉛直断面図

38° 30' N ライン(雄勝沖合ライン)

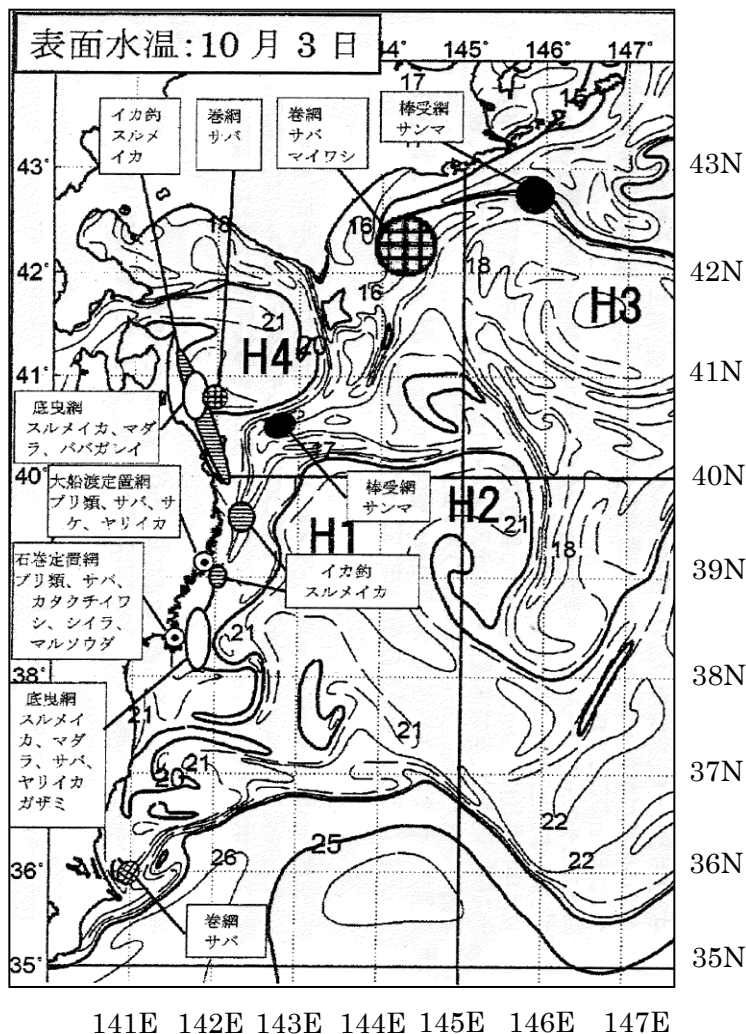


38° N ライン(亶理沖合ライン)



2014年10月3日の東北海域の海況(表面水温)

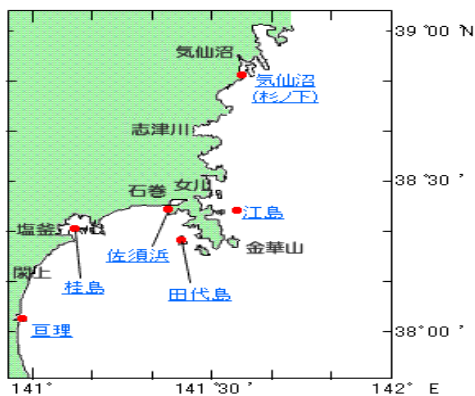
(一社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (一社) 漁業情報サービスセンター (10月3日表面水温)

- ・親潮第一分枝は津軽暖流の張り出し(H4)と三陸沖暖水渦(H1,H2)の間隙を縫って勢力を拡大しながら南下。周辺の水温が低下。
- ・親潮第二分枝も勢力を強めて 146~148° E を仙台湾の沖合まで南下。
- ・北上暖水は強勢に三陸沖を北上、道東沖 60 海里を南下する親潮の東側を東北東へ進み下北東沖で暖水渦(H3)を形成。
- ・大船渡~金華山 19~20℃台。仙台湾 21℃台。

・定地海洋観測



※最新の定地海洋観測結果は、

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/kaiyou/2014010suion-index.html> でも公開中です。

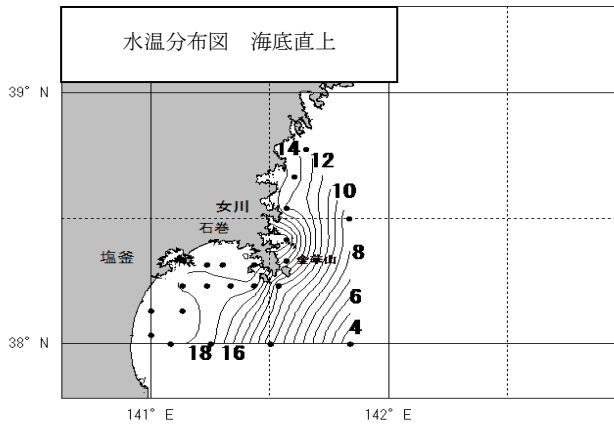
・定地海洋観測

観測点	9月下旬	平年差	前年差
気仙沼(杉ノ下)	20.5℃	平年並み	0.1℃ -1.2℃
江島	20.7℃	平年並み	0.2℃ -1.1℃
田代島	21.1℃	平年並み	-0.3℃ -1.6℃
佐須浜	21.4℃	平年並み	0.0℃ -1.2℃
桂島	21.5℃	-	- -0.3℃
亶理	21.5℃	-	- -1.0℃

※田代島と佐須浜は自動観測装置による観測を中断しています。
 ※平年差
 岩井崎, 江島, 田代島 (30年)
 佐須浜 (10年)
 桂島 (平成24年2月から観測開始)
 亶理 (平成24年10月から観測開始)

・海底直上水温図

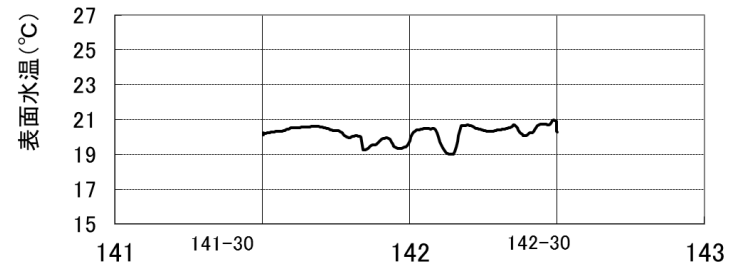
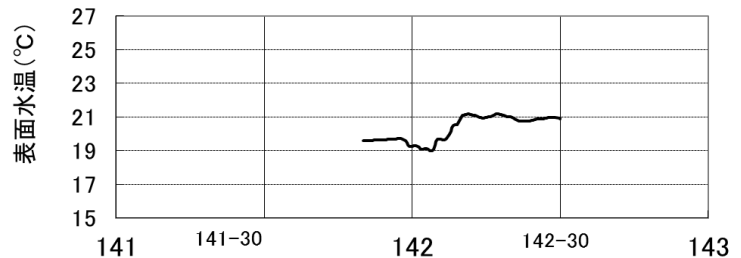
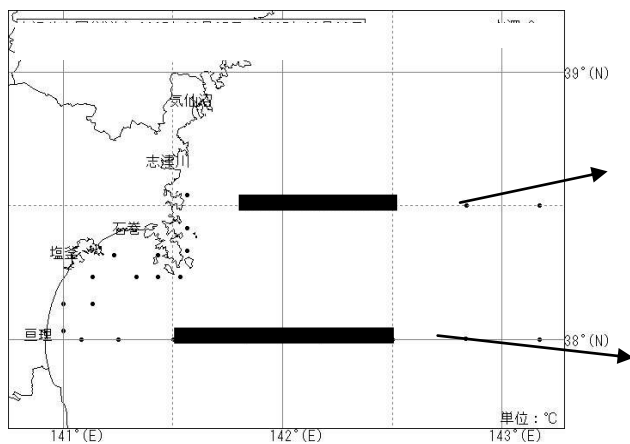
・海底直上水温(2014年10月1日～3日)



[前年同期データなし]

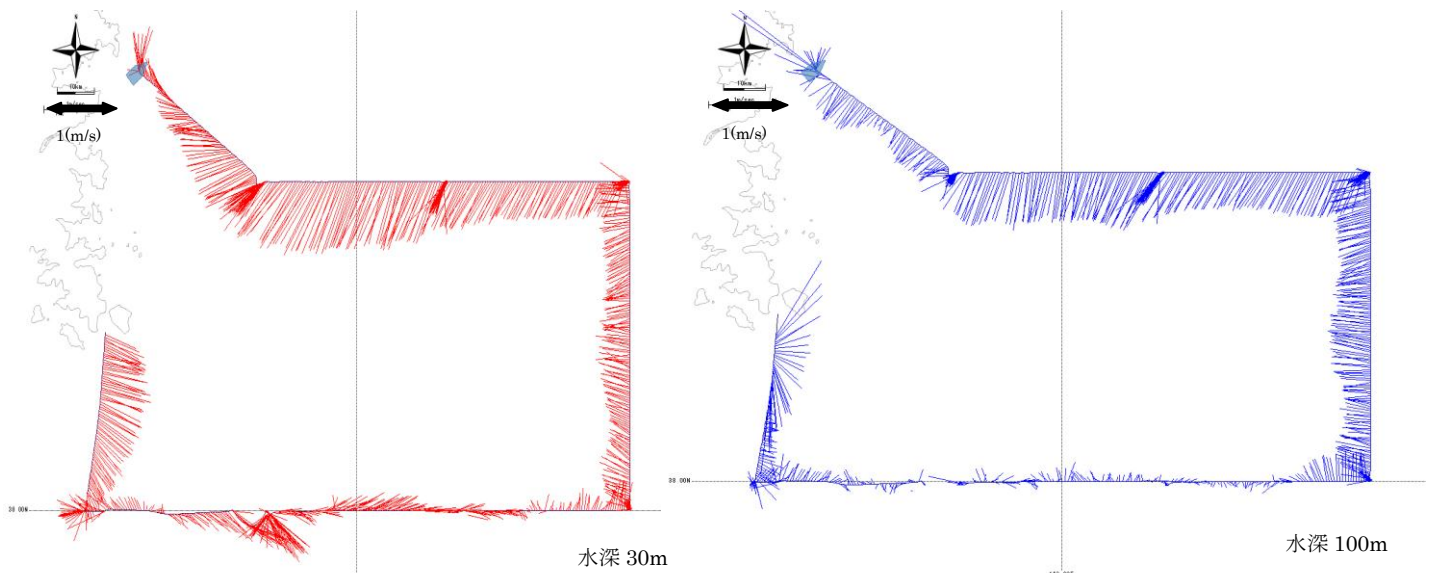
2. 表層水温情報

みやしおに搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、下記の通りです。



3. 流向流速情報

みやしおに搭載している「超音波ドップラー流向流速計(ADCP)」で取得した 30m,100m 深の流向流速は、下記の通りです。雄勝沖の流向は概ね南向きの流れが観測されました。



※潮汐成分は除去されておりません。流向は測線から伸びている方向に流れがあることを示しています。

4. 漁況

平成26年9月の水揚量を見ると、前年比でカツオ、ビンナガ、マアジ、スルメイカ及びスケトウダラを除いて水揚げが多くなっています。

主要魚種の県内10魚市場水揚量(集計期間:平成26年9月1日~9月30日)

単位:トン												
	沖底	小底	旋網	サンマ棒受	竿釣	定置網	刺網 全漁法	イカ釣り	延縄	その他	総計	前年比
カツオ			1,009		5,382	0			0	5	6,397	99%
ビンナガ					5				3	0	8	11%
クロマグロ(メジ含む)						0	0		4	3	8	115%
メバチマグロ(ダルマ含む)			158		15				367	30	570	166%
マイワシ						0				66	67	495%
カタクチイワシ						131				1	132	231%
さば類	122	0	1,457		0	460	4			39	2,082	146%
サンマ				8,097						45	8,142	277%
ブリ	0	0				242	3			5	250	105%
マアジ	50	6			0	129	0			2	189	77%
サワラ			0			25	0		0	0	25	215%
スルメイカ	506	3				6		4		1	521	23%
ヤリイカ	86	16				18				0	120	1615%
マダラ	891	0					49		0	311	1,252	296%
スケトウダラ	9	0					2			10	21	27%
キチジ	13									3	16	146%
キアンコウ	13	2				0	0			0	15	358%
マアナゴ	6	9				0	1			65	82	124%
ヒラメ	2	32				3	31			13	81	219%
マコガレイ	2	20				0	2			1	25	351%
マガレイ	48	61					0			0	109	132%
サメガレイ	10						0		0	0	10	473%
ババガレイ	36	0					0			1	37	198%
シロサケ	13	0				107	111			224	456	305%

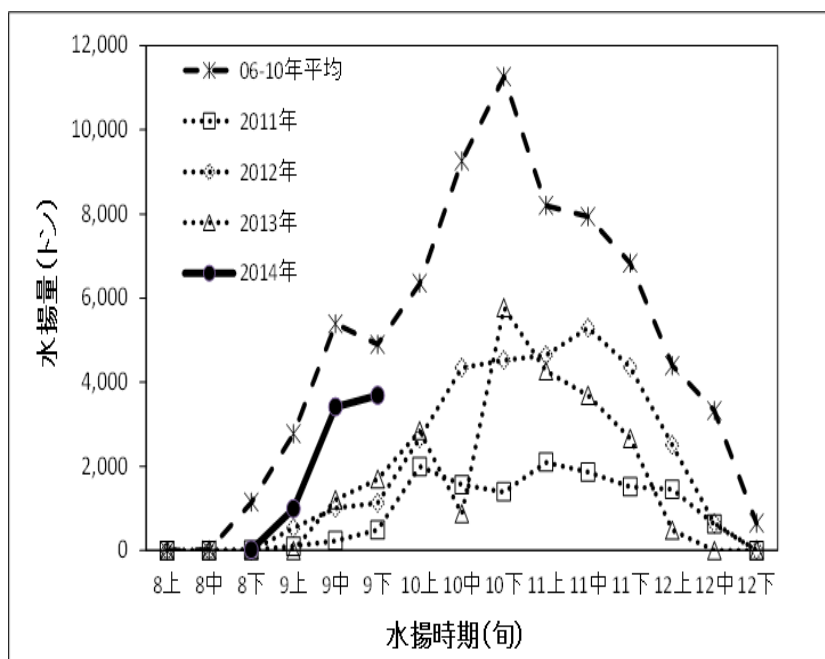
※宮城県総合水産行政情報システムによる集計(暫定集計値)
※空欄は水揚げがないことを示し、0は1トン未満の水揚げを示す。

サンマの水揚げが好調

震災後、本県へのサンマの水揚げは低水準となっていました。今年は一転して好調に推移しています。これは、9月の道東における海水温の低下が順調に推移したことや水揚げ背後地の水産加工場の復興が進んだことなど様々な要因が考えられます。

また、今年のサンマは長期漁海況予報のとおり大型主体(31cmモード)となり、脂の乗りも良く生鮮向けに高値で取引されています。

10月中旬~11月上旬には本県周辺海域において漁場形成されることが予想され、今後の水揚げ増加に期待するところです。



サンマ棒受網の旬別水揚量の推移

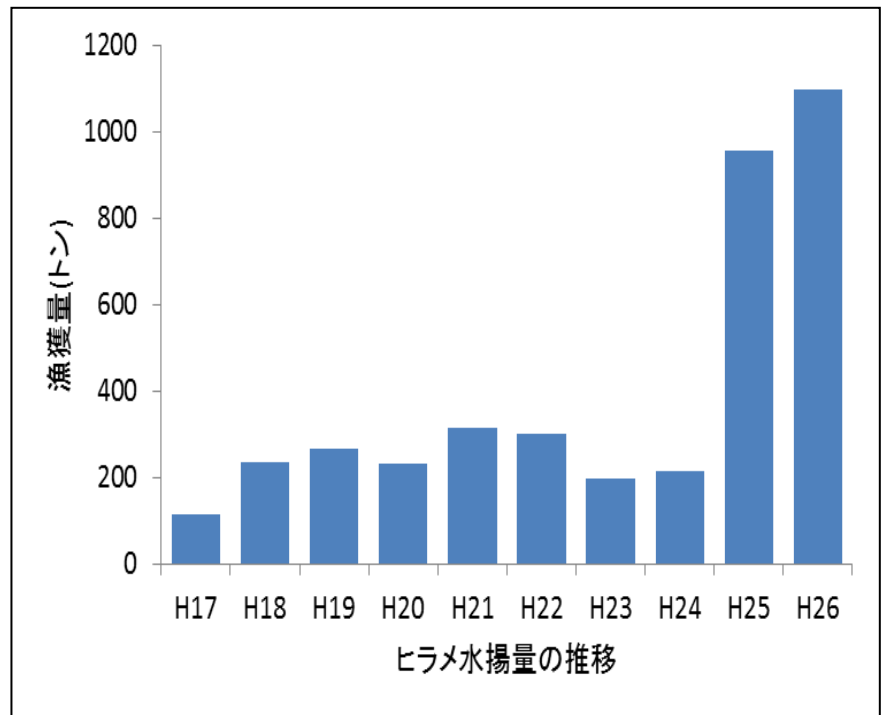
ヒラメの水揚が増加

近年のヒラメ水揚量は平成 17 年が 113.7 トンと過去 10 ヶ年の内最低を示していましたが、平成 18 年から平成 22 年まで概ね 300 トン前後を維持しています。

平成 23、24 年は震災により漁獲量が 200 トン前後と減少しましたが、平成 25、26 年は 1,000 トン前後と過去に無い程、大幅に増加しています。

この要因としては、資源評価の結果、平成 22 年級が卓越年級であったこと、震災による平成 23、24 年の漁獲努力量の低下や、操業規制による漁獲圧の低下で生残が良かったことが考えられます。

今後のヒラメの資源動向については、漁獲との関係に引き続き注目する必要があります。



5. 大型クラゲ情報

(一社)漁業情報サービスセンターによると(<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>)、「九州～北海道および太平洋側で調査を実施していますが、大型クラゲの出現は確認されていません。(9月30日)」となっています。

6. 調査船運航計画

みやしお	
10月8日～10月10日	沖合定線調査
10月15日～10月17日	カレイ類発生量現存調査
10月20日～10月24日	サンマ漁場調査
開 洋	
10月15日	女川湾底質調査
10月20日～10月21日	刺し網調査
10月22日	ヒラメ着底稚魚調査